

第二日目の漢字遊び

第二日目のための漢字カードを用意して、それで“漢字遊び”をすることは、まったく第一日目のやり方と同じです。ただ、それをする前にしなければならないことがあります。それは、第二日目のカードを子供に見せて、「これなあに」とか、「このカードは何ていう字」と尋ねることです。

子供は必ず「いちご！」と迷わず読むでしょう。読んだら、「まあ、えらいわねえ。もう覚えてしまったのねえ」と言って、感心し褒めてやるのが大切です。

大人だって、お世辞とわかって、褒められればいい気分になります。子供は、褒められればいい気分になると同時に自信が湧いてきます。自信が湧けば、自然に生き生きとなって、やる気が起こり、何をしてもうまくできるようになります。

だから、子供の教育には、褒めることくらい大切なことはありません。それは、親の最も重大な仕事だと言っても決して言い過ぎではないと思います。

もし、万一読めなかったとしても、がっかりしたり、不満な顔を見せてはいけません。子供に読めないと見たら、すぐさま、その字は初めて教えるような顔で、「この字は“いちご”という字よ。いちご、いちご」と読んでやることです。この場合は、特に、明るい気持をかき立てるような態度で、朗らかに読んでやるのが大切です。

尋ねられた漢字が読めれば得意になりますが、読めなければいい気持はしません。気持が沈めばやる気もなくなります。そうなったら学習効果は当然低くなります。だから、親が落胆したり、不機嫌な顔を見せてはなりません。

最もいけないのは、「昨日、15回も教えてやったのよ。まだ覚えられないの」と言って責めたり、「頭が悪いのねえ」などと馬鹿にしたりすることです。このような態度は、百害あって一利もありません。嚴重に慎しんで頂きたいと思います。

“毎”がほんとに大好きな子供だったら、2分半の漢字遊びでこの字が覚えられないことは、まずないと思います。一年間の学習で一文字のかなも覚えられなかった愛子ちゃんも、この2分半の漢字遊びで、その翌日第一回目の質問で、ちゃんと正しく読み、その後、一日一字

のペースでどんどん覚えて行きました。

そうは言うものの、多くの子供の中には、覚えられない子供も当然いることでしょう。その場合には、翌日、もう一日、同じことを繰り返してやって下さい。つまり、同じ字を30回も繰り返して読んでやることになります。

それでもまだ答えられないようでしたら、さらにもう一回だけ繰り返してみてください。それで45回やるわけですが、もし、これでも覚えられないとしたら、その原因は子供の側よりも、“莓”の方にあると思います。

“莓”の代わりに、子供の関心の強いと思われる別の漢字を選んで、与えてみて下さい。

さて、前に戻って、“薙”が読めたら、前述のように褒めて、それから「では、今日は“桃”という字を教えてあげましょう」と言って、第一日の要領で第二日目の漢字を教えてやります。

つまり第二日目は「これ、何ていう漢字？ そう、いちごね。よく読めました。偉い。では今度はこの字、これは“もも”という字よ。もも。もも」これを15回繰り返してやるわけです。